販売店様専用
RS-4　メンテナンスマニュアル

Ver.2025_10

メンテナンスの前に必ずお読みください

目次

1．RS-4 の仕様について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２

2．メンテナンスの必要性について・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３

3．ストーブの内部構造・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４

4．メンテナンス作業に必要な工具類や交換部品・・・・・・Ｐ５

5．メンテナンス作業を行う前に・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ６

6．メンテナンス項目、手順・・・・・・・・・・・・Ｐ６～Ｐ２５
①燃焼炉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ７～Ｐ１０
②燃料タンク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１１
③本体機械室、電装品・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１２～Ｐ２２
④給排気筒・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２３～Ｐ２５

7．動作確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２６

warmArts

１．RS-4 の仕様について

製品の製造番号によって電装品の仕様が異なります。
メンテナンス前に型式や製造番号を確認してからメンテナンスを
おこなってください。

【製造番号による仕様の違い】

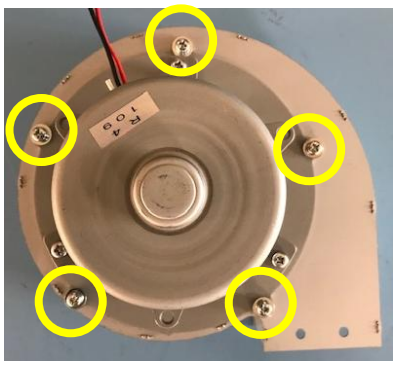
※例　2019-01245

西暦番号　　続く５ケタの番号

・排気ファン脱着不可　　点検窓なし左側面パネル
（西暦番号に続く５ケタの番号が 00800 までの製品）

・排気ファン脱着不可　　点検窓あり左側面パネル
（西暦番号に続く５ケタの番号が 00801 から 01527 までの製品）

・排気ファン脱着可能　　点検窓あり左側面パネル
（西暦番号に続く５ケタの番号が 01528 からの製品）


（脱着可能な排気ファン）


（点検窓付あり左側面パネル）

※脱着不可の電装品と、可能の電装品はメンテナンスの方法が異なりますので、マニュアルに従い清掃をおこなってください。

２．メンテナンスの必要性について

長期使用によりペレットストーブ燃焼炉内や排気経路である排気ダクト、排気ファン、給排気管内に灰やススが付着してきます。灰やススが大量にたまると、正常に給排気ができず不完全燃焼を起こしやすくなり、ススの大量発生や部品の早期故障やストーブの適正運転に支障をきたすなどトラブルの可能性が高くなります。
ペレットストーブを長持ちさせ、快適にご使用いただく為に定期的な清掃、点検等メンテナンスの必要があります。

※長期間清掃をしていなかった様子


燃焼炉内


対流ファン

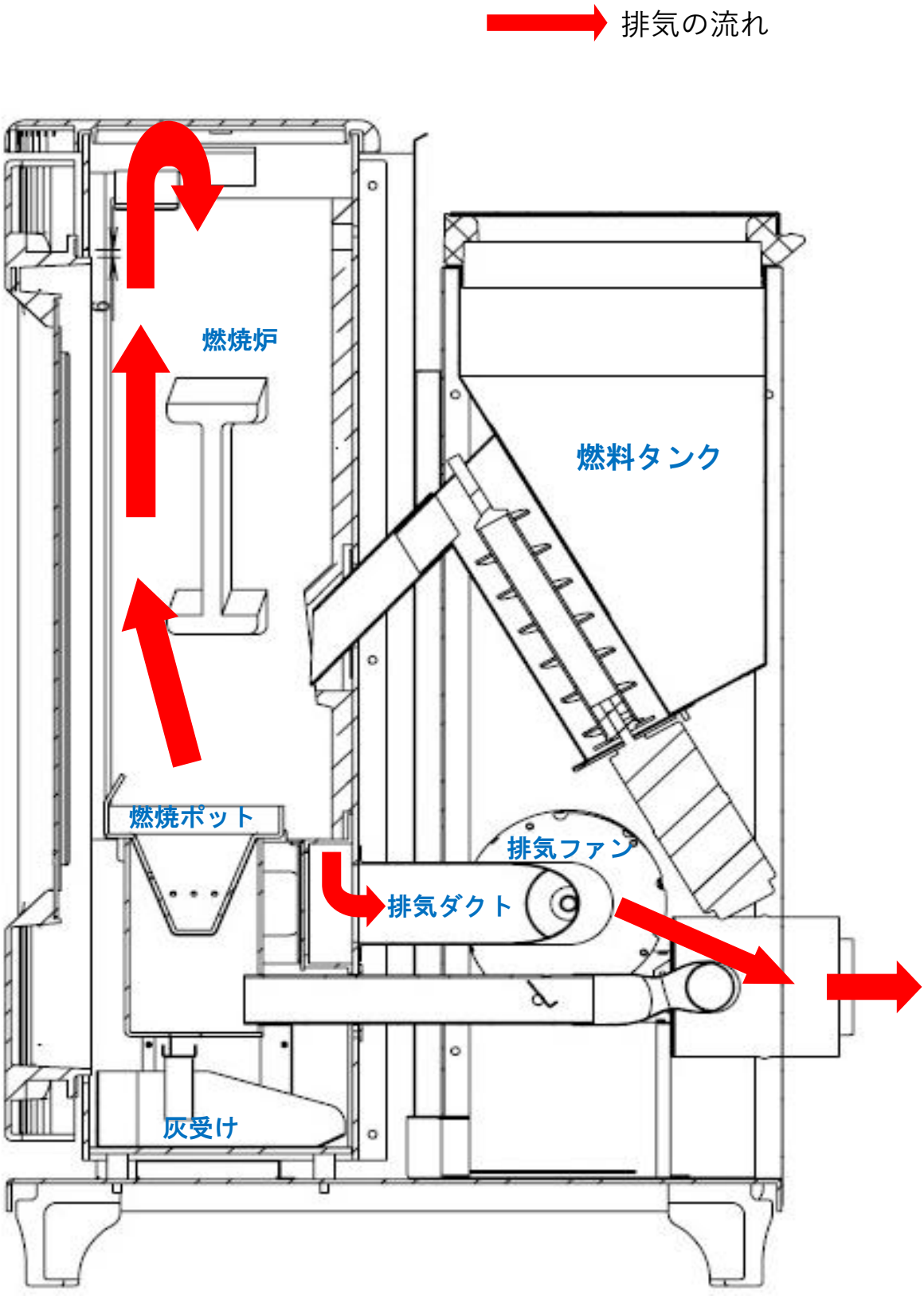

給排気筒内


排気ファン

３．ストーブの内部構造

メンテナンスが必要となる箇所は、以下の通りです。

RS-4　断面図



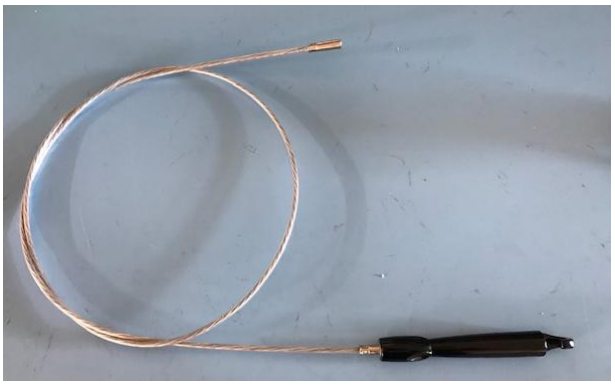
４．メンテナンス作業に必要な工具類や交換部品

■プラスドライバー（№2）（№3）※ロングドライバー、ショートドライバーも必要（ロングは 30 ㎝、ショートは 10 ㎝推奨）■マイナスドライバー
■板ラチェットドライバー（№2）
■ペンチ　■スクレイパー　■養生シート（床・壁）　■ウエス　■綿棒
■ビニール袋　■ブラシ又はハケ※柄が長いブラシ、柔らかい素材も必要
■集塵機(乾湿両用掃除機)　■ザル※ペレットの粉をふるいながら燃料タンク内のペレットを取り除くため　■懐中電灯　■養生テープ
■本マニュアル　■取扱説明書　■防塵ゴーグル　■防塵マスク　■手袋

■排気筒掃除用ブラシ（弊社販売品）



■排気筒掃除用棒（弊社販売品）



劣化状況や必要に応じて交換する消耗品や補修用性能部品

・扉用ガラスロープ
・耐火板
・燃焼ポット[内]
・各種ファン（排気ファン・対流ファン）

※各種交換手順は別紙手順書がございますので、手順書に従い交換を行ってください。

５．メンテナンス作業を行う前に

※室内で作業をおこなう際は、安全な作業スペースを確保し、床や壁に養生を施すなど細心の注意を払い作業をおこなってください。
※必ず防塵メガネ・防塵マスク・手袋を着用して作業をおこなってください。
※作業前に動作確認をして、異音や動作不良の有無を確認してください。
※パネルを取り外す作業のある場合は、電源コードをコンセントから抜いて作業をおこなってください。
※作業終了後は作業周辺を清掃してから、道具の搬出をおこなってください。

６．メンテナンス項目、手順

①燃焼炉

- 耐火板（両側面、背面）
- 燃焼ポット（内、外）
- 灰受け
- ペレット投入口
- 給気パイプ
- 燃焼炉内
- 扉
- 耐火ガラス窓
- シャッター内

②燃料タンク

- スパイラルカバー
- スパイラル
- 燃料タンク内
- スカット（オプション品）

③本体機械室、電装品

- 排気ファン
- 対流ファン
- 本体機械室内

④給排気筒

- 給排気筒内
- 排気トップ

①燃焼炉

※電源スイッチを『入』にし、排気ファンを回しながらメンテナンス作業をおこなうことで、お部屋への灰やススの飛散を軽減することができます。

1）側面耐火板、背面耐火板、灰受け、シャッター３カ所、燃焼ポット内、燃焼ポット外を取り外しそれぞれの部品を清掃します。

【注意！】

耐火板や燃焼ポットなどの部品は絶対に水洗いしないでください。

破損や金属の腐食の原因となります。

【注意！】

本体天板を取り外した場合は、気密保持のためのガスケット（ガラスロープ）の再利用はせず、必ず新品に交換してください。

ガスケットを再利用すると気密状態が崩れる原因となります。

※ガスケットの交換方法は別途手順書をご確認ください。



※側面耐熱板は上部をつかんで持ち上げながら外してください。



※集塵機で吸い取りながらブラシやスクレイパーを使用し、表面に付着した汚れを取り除きます。（サビは無理に取り除く必要はありません）

耐火板



燃焼ポット



灰受け



2）燃焼炉内の灰やススを、ブラシを使用しながら集塵機で吸い取ります。





3）ペレット投入口の灰やススを、ブラシや集塵機を使用し除去します。



4）給気パイプ内を集塵機を使用して汚れを吸い取ります。



5）シャッター内や、排気ダクト内に溜まっている灰やススを、ブラシを使用しながら集塵機で吸い取ります。




6）扉、耐火ガラス窓を清掃します。

※耐火ガラス窓の汚れが落ちにくい場合は炉内や灰受けに溜まっている灰を濡らしたウエスに付けて拭いたり、薪ストーブ用クリーナーを使用するときれいに汚れが落ちます。

※ガラスロープがほつれていたり、扉を閉めた状態ですき間が発生している場合はガラスロープの交換が必要となります。




7）燃焼炉内の清掃後、取り外したすべての部品を取り付けます。

②燃料タンク

1）燃料タンク内のペレットを出来る限り取り除いてから、ショートプラスドライバーを使用しスパイラルカバーを取り外します。
スパイラルカバーに付着したススをスクレイパーを使用し取り除きます。
※スカット（オプション）がある場合はスカットも取り外し清掃します。
※スパイラルカバー取り外しの際、燃料タンク底にウエスを敷いて作業するとネジの落下や紛失を防ぐことができます。

（スカット）

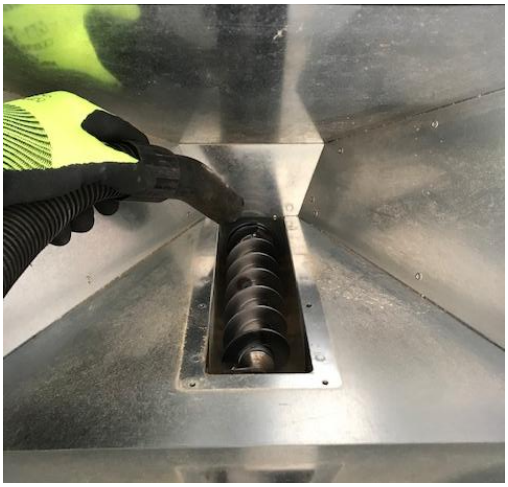




スパイラルカバー



2）スパイラルのすき間に残ったペレットを集塵機で吸い取ります。
※電源スイッチを入れ、ペレットダイヤルを最大にしてスパイラルを回転させながら作業すると効率的です。



3）スパイラルカバーを取り付け、最後に燃料タンク内に残ったペレットの粉を集塵機で吸い取ります。

③本体機械室、電装品

製造番号によっては電装品（排気ファン）を清掃するためにはストーブ本体と給排気筒を分離させる必要があります。設置環境によって１作業が困難な場合は２名で作業を行うようにしてください。

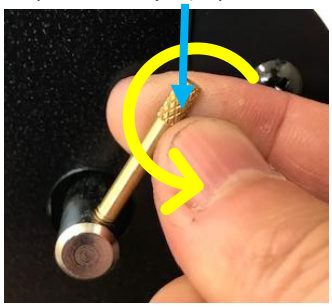
本体機械室、電装品を清掃する前に右側面パネルと、左側面パネルにある点検窓のみを取り外します。※左パネルは取り外しません。

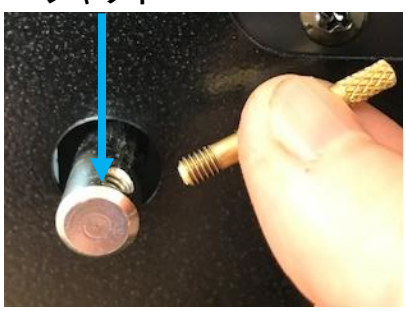
※製造番号によって左側面パネルに点検窓が無い仕様や、脱着不可の電装品がありますのでＰ２の「RS-4 の仕様について」で仕様を確認し、以下に案内するマニュアルに従い清掃してください。

【注意！】

右側面パネルを取り外す前にダンパーグリップを取り外します。
ダンパーグリップのみを、反時計回りに回転させて取り外してください。
シャフトごと反時計回りに回転させると、ダンパーグリップが根元から折れ修復が困難となります。

○





（手、またはペンチを使用します）

×



（点検窓を取り外した様子）



（右パネルを取り外した様子）



【排気ファンの清掃】

製造番号でパネルの仕様や排気ファンの仕様を確認し、それぞれのパターンの清掃方法に従い清掃してください。

●パターンＡ（Ｐ14 へ）

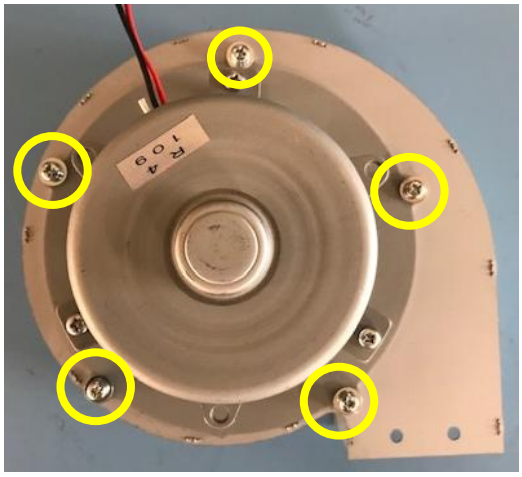
西暦番号に続く５ケタの番号が 01528 以降の製品。

または、01527 までの製品で排気ファンユニットを交換した履歴がある。

・排気ファン（脱着可能）

・点検窓（あり）

（ケーシングに取り付けてある５個のネジがある）



（４個のネジで取り付けてある点検窓がある）



●パターンＢ（Ｐ16 へ）

西暦番号に続く５ケタの番号が 01527 までの製品で、排気ファンユニット交換や点検窓付きパネル交換履歴も無い製品。

・排気ファン（脱着不可能）

・点検窓（有りと無しが混在）

（ケーシングに取り付けてある５個のネジが無い）



（左側面パネルが一体物で点検窓が無い）

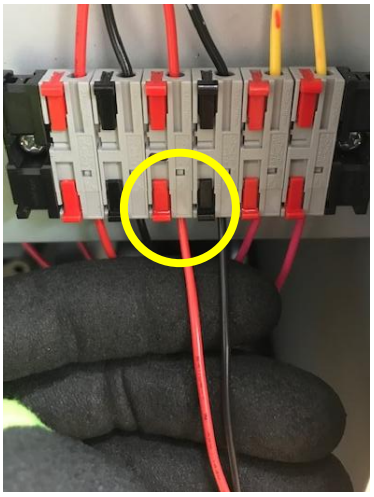


●パターンＡの清掃方法

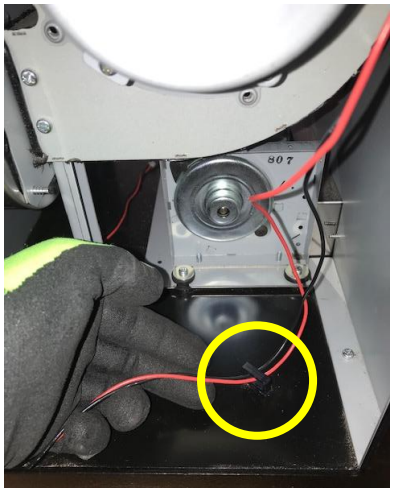
１）端子台に差し込まれている排気ファンの配線を２本取り外します。
（赤線・黒線）

※端子台のつまみを上げてから配線を抜きます。

※配線を抜いたらハーネスクリップで固定されている配線を取り外します。



（端子台の様子）





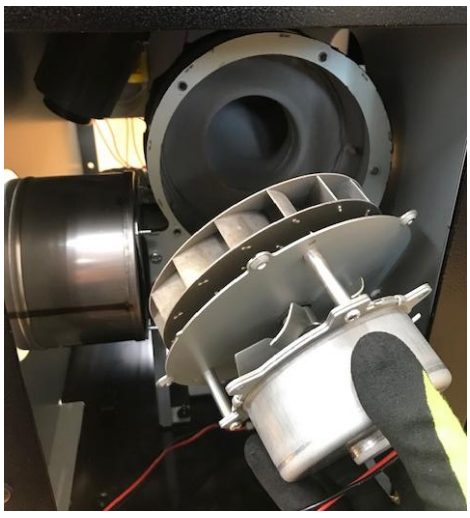
（ハーネスクリップの様子）

２）プラスドライバー（№2）を使用し、５つのネジを外してから排気ファンモータを取り外します。

排気ファンは柔らかいブラシや集塵機を使用して清掃してください。

※排気ファンモータが落下しないように、支えながらネジを外します。





【注意！】

金属製などの固いブラシなどで強くこすると、フィンが変形するなど、軸

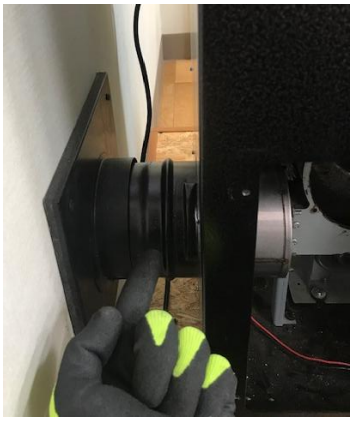
ブレを起こし異音の原因となります。

3）排気ファンケーシング内、排気ダクト内、横引き配管内をブラシと集塵機を使用し清掃します。

（排気ダクト内）



（横引き配管内）



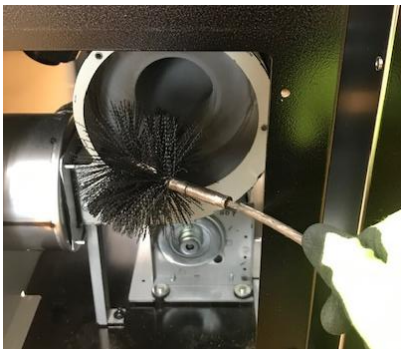
【横引き配管内の清掃方法】

オプションの排気筒掃除用棒と、排気筒掃除用ブラシを連結させて下図の場所からブラシを入れ込み、横引き配管内の灰やススを奥へ押し出します。

※灰やスス飛散防止のため、集塵機を使用しながら作業します。

※ブラシで灰やススを押し込むと、室内Ｔ字管や室外Ｔ字管の底に落ちますが、直出し配管の場合は事前に排気出口を袋で覆ってから作業してください。







清掃が終わったら、逆の手順で排気ファンモータを取り付け、ビス５個で固定します。

最後に配線をハーネスクリップで固定し、端子台に配線を差し込みます。

※配線を差し込んだらつまみを下げてロックします。

●パターンＢの清掃方法

１）排気ファンモータが脱着できない仕様の為、下記の方法で排気ファンの清掃を行います。※必ず電源プラグを抜き、排気ファンが停止している状態で作業してください。

・室外立上げ設置の場合

給排気筒を取り外し、図のように集塵機ノズルを差し込み排気筒内と排気ファンケーシング内の灰やススを除去します。





排気筒を外した場合は、O リングの交換が必要です。詳しくは P27 を参照ください。

・室内立上げ設置の場合

室内用Ｔ字管と本体を外し、図のように集塵機のノズルを差し込み排気ファンケーシング内の灰やススを除去します。

※室内用Ｔ字管と本体を外す際は、
必ず床に養生をしてから取り外してください。



排気筒を外した場合は、O リングの交換が必要です。詳しくは P27 を参照ください。

・直出し設置の場合

排気トップを取り外し、図のように集塵機のノズルを差し込み排気筒内と排気ファンケーシング内の灰やススを除去します。





【対流ファンの清掃方法】

製造番号でパネルの仕様や排気ファンの仕様を確認し、それぞれのパターンの清掃方法に従い清掃してください。

●パターンＡ（このページから）

西暦番号に続く５ケタの番号が 00801 以降の製品

・点検窓（あり）

●パターンＢ（Ｐ１９へ）

西暦番号に続く５ケタの番号が 00800 までの製品

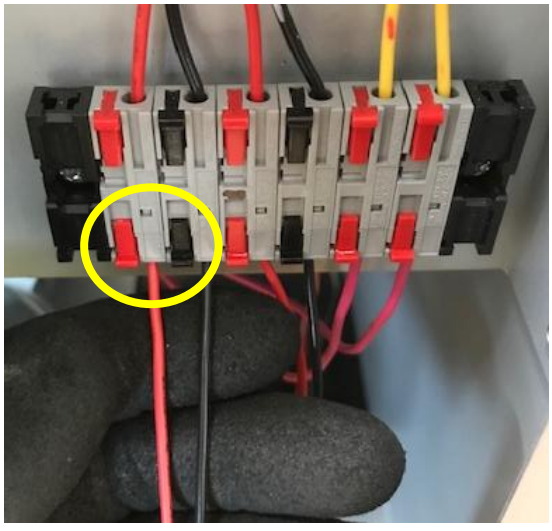
・点検窓（なし）

●パターンＡの清掃方法

１）本体右側機械室にある端子台の対流ファンの配線を抜きます。

（赤線・黒線）

※端子台のつまみを上げてから配線を抜きます。



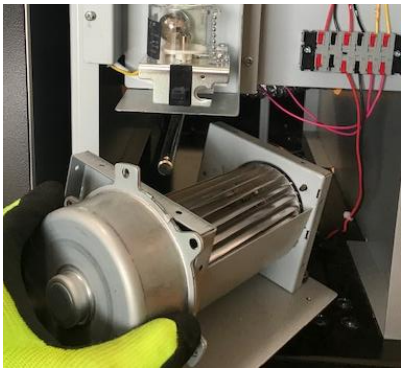
2）板ラチェットドライバー（№2）を使用し４カ所のネジを取り外します。

（右側面パネルから）



（左側面パネルの点検窓から）





※製造番号によってはネジでの固定ではなく、対流ファンがベースの開口に差し込まれている仕様の製品もあります。
差し込まれている仕様のものは、対流ファンをそのまま引き上げると取り外れますので、取り付ける際も同じ開口に差し込んでください。

3）フィンに付着しているホコリは綿棒や柔らかいハケやブラシ、集塵機を使用して清掃してください。

【注意！】

金属製などの固いブラシなどで強くこすると、フィンが変形するなど、軸ブレを起こし異音の原因となります。

4）清掃が終わったら、逆の手順で対流ファンを取り付け、最後に端子台に配線を差し込みます。
※配線を差し込んだらつまみを下げてロックします。

●パターンＢの清掃方法

１）本体右側機械室にある端子台の下側の配線６本を抜きます。

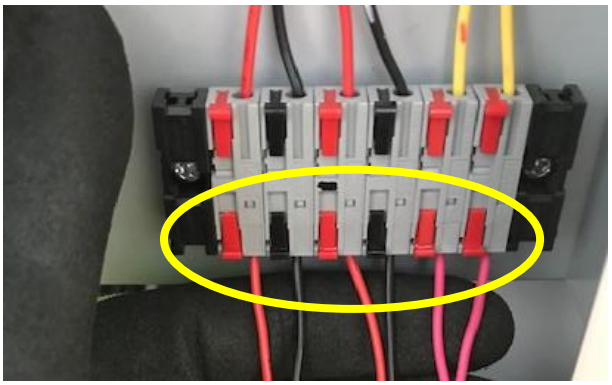
※端子台のつまみを上げてから配線を抜きます。

※端子台下部左から

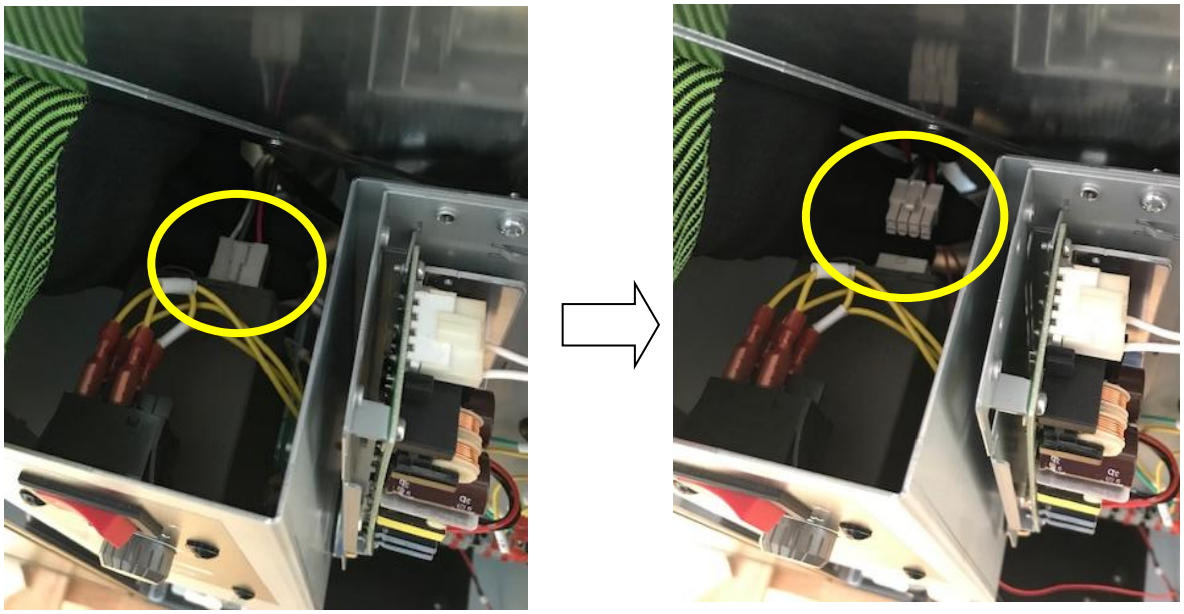
・対流ファン（赤線・黒線）

・排気ファン（赤線・黒線）

・90℃バイメタルスイッチ（赤線・赤線）



２）コントローラのコネクタを外します。



3）下図で示す 5 カ所のネジを外し、端子台ユニットを取り外します。

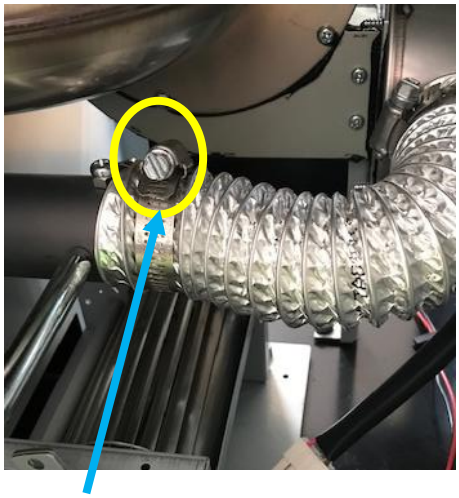




※端子台ユニットが落下しないように、支えながらネジを外します。



4）マイナスドライバーを使用しアルミダクトバンドを緩め、アルミダクトを取り外します。



アルミダクトバンド



5）柔らかいハケやブラシや集塵機を使用し、フィンに付着しているホコリを吸い取ります。

【注意！】

金属製などの固いブラシなどで強くこすると、フィンが変形するなど、軸ブレを起こし異音の原因となります。



6）清掃が終わったら、逆の手順で取り外した部品（アルミダクト、端子台ユニット）を取り付けます。

※端子台ユニットを取り付けたらコントローラのコネクタを必ず差し込んでください。

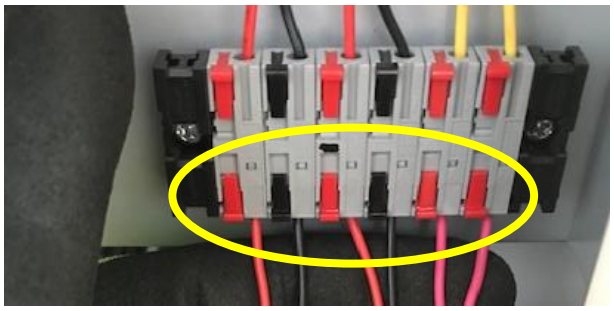
初めに取り外した配線を、それぞれに合う端子台に差し込みます。

※端子台下部左から

・対流ファン（赤線・黒線）

・排気ファン（赤線・黒線）

・90℃バイメタルスイッチ（赤線・赤線）



※配線を差し込んだらつまみを下げてロックします。

【本体機械室内の清掃方法】

1）柔らかいハケ、集塵機を使用し機械室内のホコリを除去します。

〇印内を特に注意して清掃をおこなってください。

（機械室の様子）



※本体機械室内、電装品の清掃が終わったら本体を取り付けられていた状態に戻し、右側面パネルと点検窓を取り付けます。

④給排気筒

【室外立上げの場合】

1）汚れ防止のため室外Ｔ字管の下に養生してから、室外Ｔ字管のキャップを外し、室外Ｔ字管の底を袋で覆います。





2）排気トップを外し、専用の排気筒掃除ブラシを差し込んで給排気筒内の灰やススを袋へ落とします。







3）壁貫通部排気筒内の灰やススは、排気ファン清掃時に排気ファンケーシング内からブラシで押し込むことによって、室外Ｔ字管の底に落ちるようになっています。

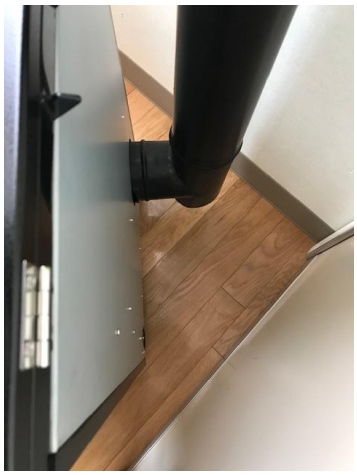
横キャップＴ字管が取り付けてある場合は、横のキャップを取り外して集塵機のノズルを差し込み灰やススを除去します。

（横キャップＴ字管）



【室内立上げの場合】

1）汚れ防止のため付近の壁と、室内Ｔ字管の下に養生をし、室内Ｔ字管の底をビニール袋で覆ってから室内Ｔ字管のキャップを外します。





2）排気トップを外し、専用の排気筒掃除ブラシを差し込んで給排気筒内の灰やススを袋へ落とします。



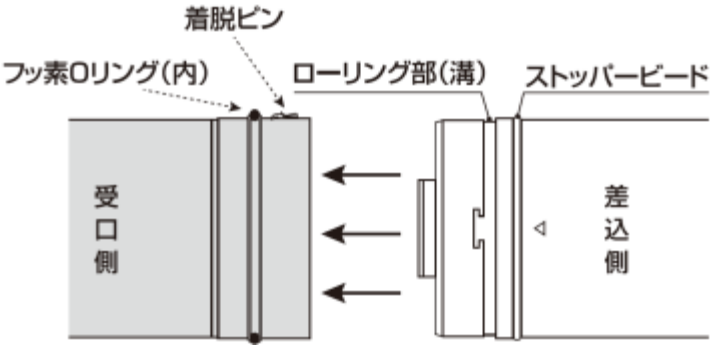


【直出しの場合】

1）排気トップを外し、集塵機のノズルを差し込んで給排気筒内の灰やススを除去します。




※給排気筒接続部を取り外した場合は、接続部内部のＯリングを新しいものに交換してください。





※Ｏリングはストーブ運転中の排気熱により焼き付き、給排気筒が外しにくくなる場合があります。

※シーズンオフの防虫・防鳥対策

周囲の環境により、給排気筒出入り口から虫や鳥が内部に侵入することがあります。

エンドキャップ（別売りオプション）をご使用いただくと

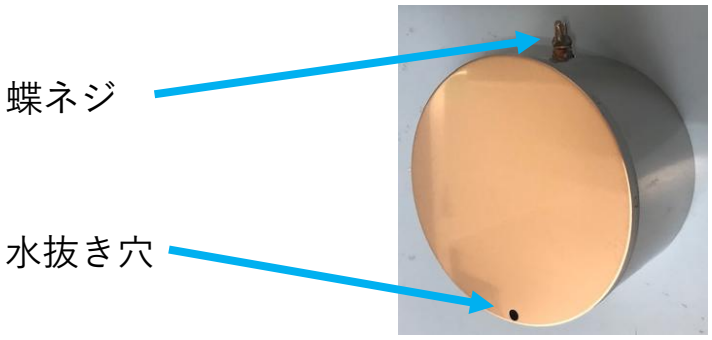
防虫・防鳥の対策ができます。

【エンドキャップの使用方法】

・水抜き穴を下に向けてセットしてください。

・給排気筒が変形する可能性がある為、蝶ネジを閉めすぎないよう注意してください。

少し抵抗がかかる程度の締め方で問題ありません。



7．動作確認

1）電源プラグをコンセントに差し込み、感震自動消火装置をセットします。

2）電源スイッチを入れ、排気ファン、対流ファン、スパイラルモータの作動を確認します。

3）消耗品交換が必要な場合は、別紙の修理マニュアルを参照し交換します。

※作動確認時に異常が見つかった場合は、弊社までご連絡ください。

warmArts
株式会社 新越ワークス
エネルギー事業部
〒959-1286 新潟県燕市小関681番地
TEL(0256)64-8580㈹
FAX(0256)63-7977
受付時間：祝祭日を除く平日9:00～17:00